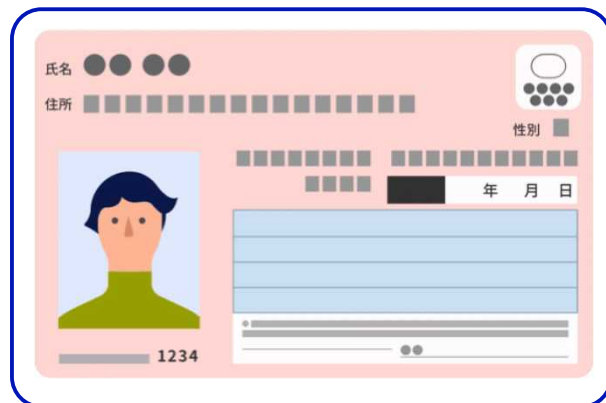


デジタル認証アプリを使った マイナンバーカードの利活用推進について

令和7年2月3日

マイナンバーカードとは

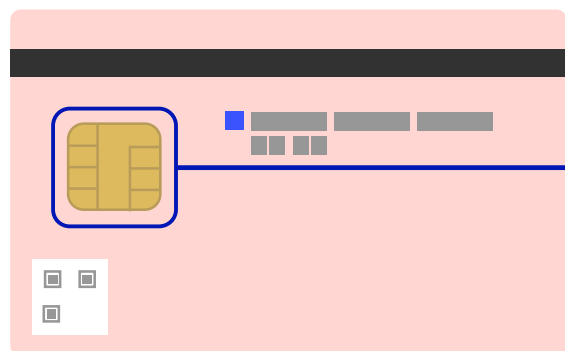


1. マイナンバー（12桁の番号）

法令または条例で定められた手続におけるマイナンバーの確認に利用します。

2. 対面での本人確認

カードのおもて面は顔写真付きの本人確認書類として利用できます。



3. デジタルでの本人確認

ICチップを利用してオンライン上で安全かつ確実に本人であることを証明します。

本人確認のためには、
マイナンバーは必要
ありません。

マイナンバーカードの申請件数と保有枚数

マイナンバーカード

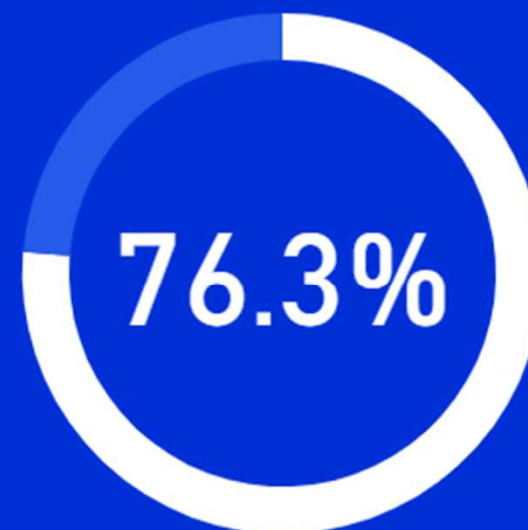
保有枚数

95,341,447

有効申請枚数

106,851,828

人口に対する保有枚数率



2025年1月9日現在

マイナンバーカードのアプリの概要

マイナンバーカードの表面



マイナンバーカードの裏面



マイナンバーカードのAP構成



AP	用途・機能	アクセスコントロール
JPKE-AP (公的個人 認証AP)	・署名用電子証明書は電子申請に利用	暗証番号(6～16桁の英数字)
	・利用者証明用電子証明書はマイナポータル等のログインなどに利用	暗証番号(4桁の数字)
券面AP	・対面における券面記載情報の改ざん検知 ・対面における本人確認の証跡として画像情報の利用 ※記録する情報は、 表面情報: 4情報+顔写真の画像 裏面情報: マイナンバーの画像	○マイナンバーを利用できる者 マイナンバー12桁により表と裏の券面情報を確認 ○マイナンバーを利用できない者 生年月日6桁+有効期限西暦部分4桁+セキュリティ コード4桁により表の券面情報のみ確認
券面事項 入力補助AP	・マイナンバーや4情報を確認(対面・非対面)し、テキストデータとして利用することが可能 ※記録・利用する情報は、 ①マイナンバー及び4情報 並びにその電子署名データ ②マイナンバー 及びその電子署名データ ③4情報 及びその電子署名データ 注) マイナンバーについては、番号法に基づく事務でのみ利用可能。	①については、暗証番号(4桁の数字) ②については、マイナンバー12桁 ※これにより、券面目視によりマイナンバーを手入力 するようなケースで正誤チェックが可能となる。 ③については、生年月日6桁+有効期限西暦部分4桁+ セキュリティコード4桁
住基AP	・住民票コードを記録 ・住基ネットの事務のために住民票コードをテキストデータとして利用可能	暗証番号(4桁の数字)

※「暗証番号(4桁の数字)」については、統一の設定も可能。ただし、生年月日やセキュリティコード等と同一は不適当。

JPKI導入効果（金融機関ヒアリングより）

- デジタル庁において、JPKIの導入事業者にヒアリングを行ったところ、マイナンバーカードによるJPKIを活用した本人確認の導入効果については以下のとおり。
- マイナンバーカードが国民の7割以上に普及する中で利用割合が増加していること、本人確認に要する時間が短縮されること、導入企業の事務負担の軽減に繋がることが確認されている。

※2024/01現在

項目	A社 (証券会社)	B社 (銀行)	C社 (資金決済業)
利用方法	オンラインでの証券口座開設	オンラインでの銀行口座開設	オンラインでの資金移動口座開設
JPKIによる 本人確認の 利用割合 (2022年→2023年度)	10%⇒40% (4倍に増加) ※本人確認書類の画像をアップロードする 方式、本人確認書類のコピーを郵送する方 式がJPKIに置き換えられた。	20%⇒40% (2倍に増加) ※本人確認書類の画像と本人画像のアップ ロードによる方式がJPKIに置き換えられた。	15%⇒35% (2.3倍に増加) ※本人確認書類の画像と本人画像のアップ ロードによる方式がJPKIに置き換えられた。
本人確認に 要する時間	短縮	約2分の1	数時間(従来)⇒即時 ※電子的に送信された本人確認書類の真 正性の確認に要する時間が短縮された。
本人確認に 要するコスト	減少 (外注費用が約6分の1)	約3分の1	約3分の1
その他	なりすまし抑止	不正口座開設が減少	不正申請が減少

デジタル認証アプリの概要

安心・安全の社会の実現のためにオンライン本人確認は必要不可欠

転売目的の買い占め防止

本人確認を行うことで確実にプレミアム商品を
1人1個で販売し買い占めを防止



取引相手とのトラブル防止

本人確認を通しフリマサイトやSNSなど
ネットを空間でのコミュニケーションを安全に



不正ログインの防止

本人確認を行いアカウントにログインすることで
個人情報漏洩と不正利用を防止



どのサービス・どのIDに対しても、スマホで本人の確認を提供



デジタル認証アプリを2024年6月にリリース

確実に、安全で、簡単な本人確認を。

デジタル認証アプリに対するお問い合わせ数

300+

デジタル認証アプリの申込数

100+



利用シーン

行政機関での利用



自治体の施設予約
地域通貨
図書館での図書の貸出管理
など

民間事業者での利用



クラウドファンディング
個人間取引プラットフォーム
医療情報閲覧アプリ
など

行政機関と民間事業者の両方での利用



本人確認システム
クラウドサーバの提供
など

本人確認（認証）の流れ

デジタル認証アプリ での認証

デジタル認証アプリを利用して、
スマホで利用しているサービスに対して
本人を確認する



デジタル認証アプリサービスAPIの概要

※官民のサービス主体に対してデジタル庁が提供するAPIです

認証API （マイナンバーカードの利用者証明用電子証明書を用いた認証）

電子利用証明の検証と利用者証明用電子証明書の有効性確認の結果等を連携
マイナンバーカードの券面事項入力補助APを用いた 4 情報連携機能も利用可能
OpenID Connect / OAuth 2.0 により簡易な組み込みが可能

活用例



ECサイトやネットバンキングログイン時の本人確認に



公共施設やシェアリングサービスなどのオンライン予約時に



ライブ会場等での酒類購入時の年齢確認に



地域アプリ登録時のオンライン本人確認

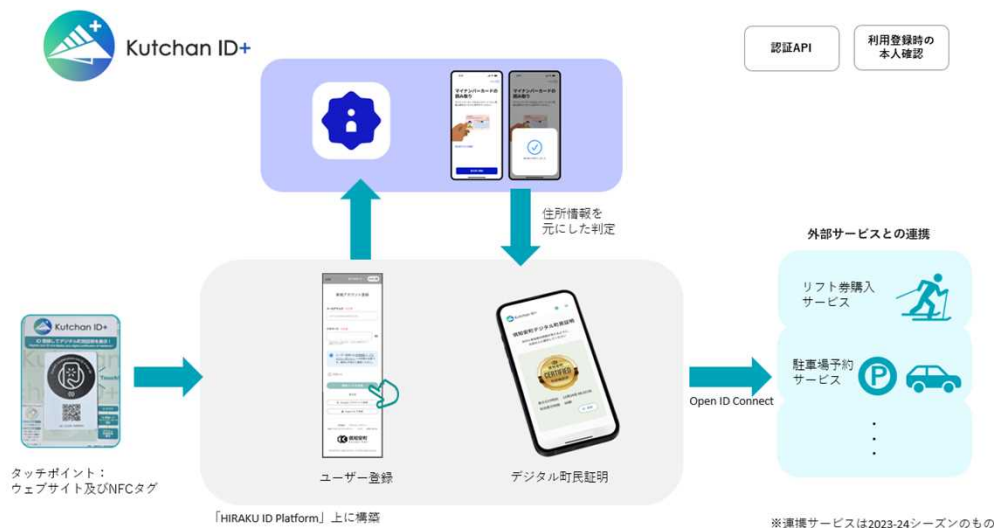
署名API （マイナンバーカードの署名用電子証明書を用いた署名）

署名値と署名用電子証明書を連携（認証APIと異なり、電子署名の検証は行わない）
行政機関向けに限り署名用電子証明書の有効性を確認
マイナンバーカードの券面事項入力補助APを用いた 4 情報連携機能も利用可能

認証API利用の流れ



倶知安町・倶知安観光協会「Kutchan ID+（くっちゃんアイディープラス）」



【サービス内容】

倶知安(くっちゃん)町民がスマートフォン上にデジタル町民証明を表示出来る共通 ID サービス。参画店舗での町民優待を迅速かつ簡便に実現します。Open ID Connect での外部連携により一つのIDで様々なサービスへ活用が広がります。

【本人確認・電子署名の対象】

町民証明を取得する時の本人確認

【本人確認に関する根拠法令】

なし

【デジタル認証アプリへのコメント】

マイナンバーカードの情報を適切・安全に活用でき、これまで課題であった住民証明をスムーズに行うことが出来る。

北海道上士幌町「かみしほろスマートPASS上士幌町オンライン申請」



【サービス内容】

上士幌町内の施設や交通、物流などのサービスをより簡単に、より便利にお使いいただくためのポータルサイトです。サイト内では、町に対しての行政手続きを24時間365日いつでもオンライン上で申請することができます。

【本人確認・電子署名の対象】

オンライン申請で証明書等取得申請の際の署名

【本人確認に関する根拠法令】

なし

【利用サービス】

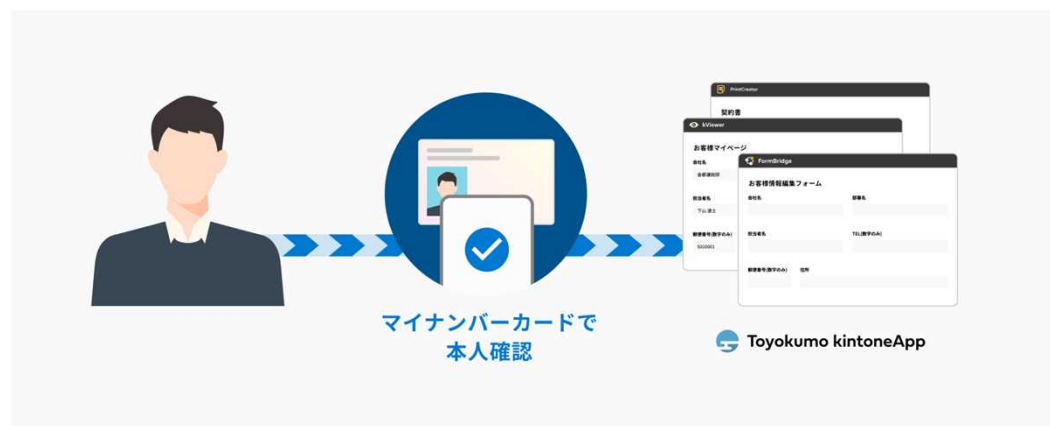
かみしほろスマートPASS上士幌町オンライン申請

【デジタル認証アプリへのコメント】

行政手続きのオンライン申請が「誰でも・簡単・便利に」できるようになったため、日中なかなか役場に足を運べない方々へのサービス提供が可能となった。

トヨクモ株式会社「マイナンバーカードで本人確認」

マイナンバーカードで本人確認とは



本人確認が完了したユーザーのみ
Toyokumo kintoneAppのサービスにアクセスできます

【サービス内容】

マイナンバーカードによる本人確認を通過した人だけがアクセスできるシステムを簡単に構築できます。kintoneと連携して本人確認で取得した情報を保存することもできます。

【本人確認・電子署名の対象】

Toyokumo kintoneAppのサービスアクセス時に本人確認

【本人確認に関する根拠法令】

なし

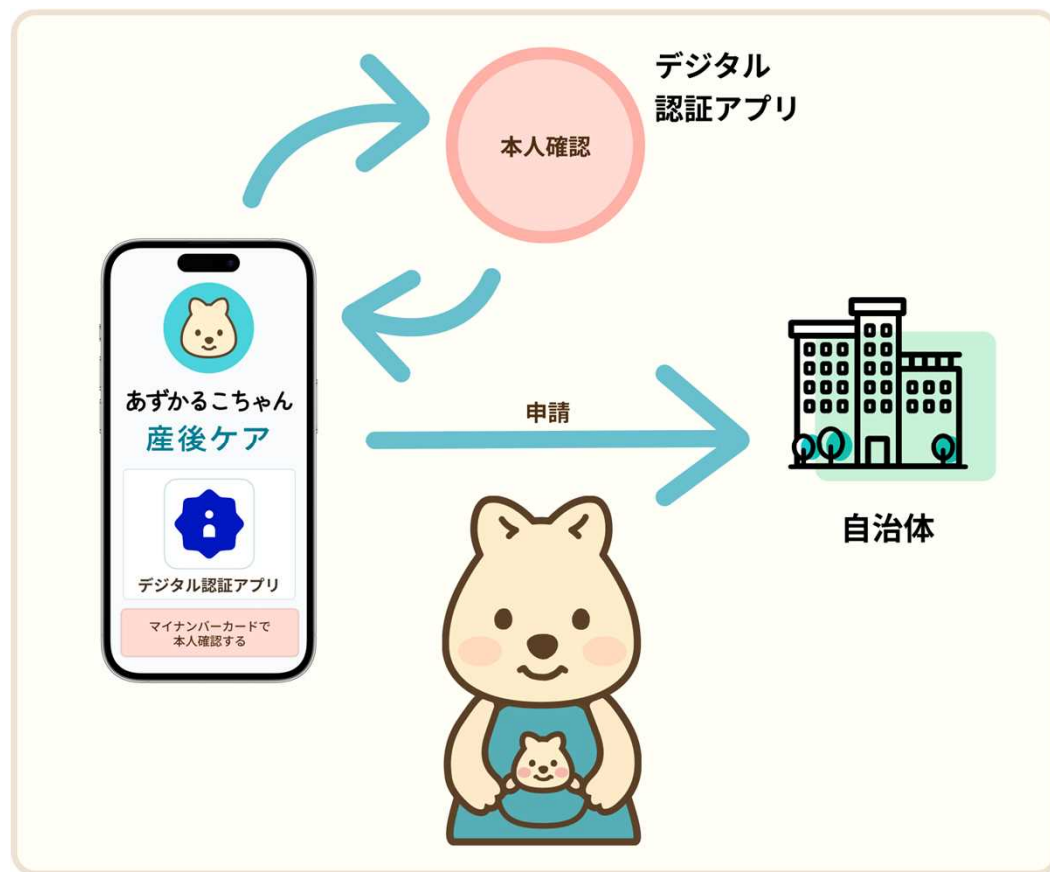
【デジタル認証アプリへのコメント】

マイナンバーはこの日本社会をより良く変革する旗印となるものだと思います。

デジタル庁様が早いスピードでデジタル認証アプリをリリースしてくださったことで、行政サービスだけではなく民間のサービスにも活用の扉が開かれ、今後非常に多くの効率化が成されてより良い社会へと変わっていく。その大きなきっかけになると感じています。

我々も微力ながらこの流れを後押しすることに尽力し、共に良い未来の実現のために働いていきたいと思っています。

株式会社グッドボタン「あずかるこちゃん産後ケア」



【サービス内容】

産後ケアを利用するまでのプロセス（事前申請、施設探し、空き状況確認、予約など）をデジタル化することで、産後ケアを必要としている女性たちと産後ケア施設をつなぐ新しいサービスです。

【本人確認・電子署名の対象】

自治体への申請時の本人確認

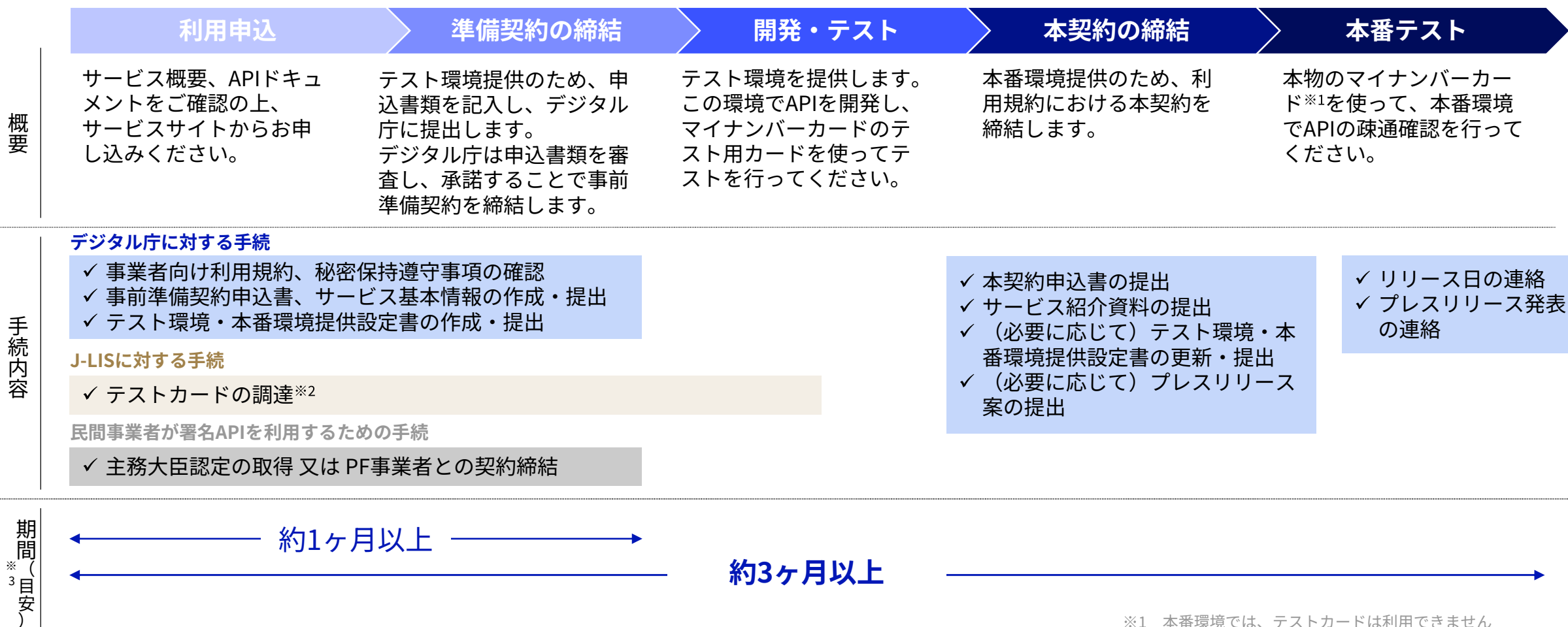
【本人確認に関する根拠法令】

なし

【デジタル認証アプリへのコメント】

これまでは産前産後の状況であっても本人確認のために役所へ出向く必要があったが、デジタル認証アプリで自宅から申請できて楽になる。

デジタル認証アプリの利用には準備契約と本契約が必要です。手続や審査の期間等を踏まえ、余裕を持ったスケジュールでお申し込みください



※1 本番環境では、テストカードは利用できません
※2 テストカードの調達に係る方法や期間は、地方公共団体情報システム機構（J-LIS）にお問い合わせください
※3 お申込状況によってお待たせする可能性があります

【参考】サービス詳細情報とAPIドキュメントについて

より詳しい情報は、サービスサイト及びデジタル庁開発者サイトをご確認ください。

サービスサイト

<https://services.digital.go.jp/auth-and-sign/>

デジタル認証アプリ

マイナンバーカードで
本人の確認を簡単に

2024年6月末にアプリの公開を予定しています

お知らせ

現在お知らせございません。

一覧を見る

目次

- アプリの概要
- デジタル認証アプリサービスAPIの利用を検討するみなさまへ
- よくある質問
- デジタル認証アプリについて

アプリの概要

令和6年（2024年）4月時点で、マイナンバーカードの保有率は70%を超過しており、マイナンバーカードの利用シーンが広がっています。「デジタル認証アプリ」は、マイナンバーカードを使った認証や署名を、安全に・簡単にするための、デジタル庁が提供するアプリです。

デジタル庁開発者サイト

<https://developers.digital.go.jp/documents/auth-and-sign/implement-guideline/>

デジタル庁
開発者サイト

ホーム サービス ドキュメント デザイン 新着・更新 検索

デジタル認証アプリ

RP向け実装ガイドライン

APIリファレンス（民間事業者向け）

APIリファレンス（行政機関向け）

デザインガイドライン

デジタル認証アプリ

APIリファレンス（民間事業者向け）

認可エンドポイント

OpenID Connect で定義されている認可エンドポイント

QUERY PARAMETERS

response_type
required

string
Value: "code"
Example: response_type=code
レスポンスタイプ
OpenID Connect の通り。
デジタル認証サービスは、認可コードフローのみをサポートする。
固定値 "code" を設定する。

scope
required

string
Example: scope=openid name address birthdate gender user_certificate sign
スコープ
Access Token に要求されるアクセス権限。大文字と小文字を区別する文字列で、スペース区切りのリストで示される。
[スコープ一覧]

スコープ名	説明
openid	必須。
name	基本4情報取得を要求する場合設定
address	基本4情報取得を要求する場合設定

目次

- 認可エンドポイント
 - Responses
- トークンエンドポイント
 - Responses
 - Response samples
- UserInfoエンドポイント
 - Responses
 - Response samples
- 署名トランザクション開始
 - Responses
 - Request samples
 - Response samples
- 署名トランザクション結果取得
 - Responses
 - Response samples
- OpenID Configuration エンドポイント
 - Responses

デジタル庁
Digital Agency